

学校と地域が協働する東っ子の育成

大野市有終東小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	4回
中学校区を単位とした協議会	4回
地域及び家庭への学校公開	8回 (のべ) 8日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	116人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	42人
登下校支援ボランティア	10人
その他 (ワクワクみつばランド)	70人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

本校は、今年度「大野市教育理念」を根底に据えて、スクールプランの重点目標を「考えのあふれる学び」「やさしい心」「元気な体」「地域とつながる学校」に精選した。「地域とつながる学校」では、大野市や校区のよさを学び、地域に参画する児童の育成に取り組んでいるところである。今回は、初めて開催した『ワクワクみつばランド』について報告する。

本校は、11月に「秋の集会」として、児童が縦割り班で参加体験型のブースを計画・運営するとともに、前半と後半の2交替で体験し合う行事を開催してきた。「地域とつながる学校」を進めるため、「秋の集会」に合わせてPTAとして何か協力することができないかという意向を受けて、地域・学校協議会で協議し、地域の人材(宝)を生かした参加体験型の学びの場『ワクワクみつばランド』を実施することになった。『ワクワクみつばランド』の目的は、思いやりの心や人とのつながりの大切さ、地域の文化の一端を児童・教職員・保護者・地域住民が共に学び合うことである。そして、専門的知識や熟達した技を有する達人を招聘して、昔遊び・工作・指編みマフラー・ダンス・パントマイムなどに挑戦したり、大野市の歴史・文化を学んだり、救助袋による避難とAEDの実習をしたりする18種類のブースを開設した。各ブースの活動を支援するスタッフは、保護者からボランティアを募った。

11月6日(日)、午前中は、児童が自ら行う「秋の集会」、午後は、芸術鑑賞とPTA主催の『ワクワクみつばランド』を行った。『ワクワクみつばランド』は、1講座30分とし3交替で行った。児童には予め受講したいブースの希望調査を行い、3回の内、1回は第1希望を叶えて、他の2回もなるべく児童の希望に添うように調整した。地域住民や校区の中学生にも案内文書を配布して見学・参加を呼びかけ「フルーツ大福」のブースには、本校近くのいとよ保育園の園児と保護者も参加した。「プロペラトンボ」のブースでは、講師の方が、ある程度加工をした材料を用意して、作るだけでなく楽しく遊ぶ時間も確保するなど、どのブースも児童の発達段階に合わせて、参加体験できるように工夫されていた。



ブース「さあ、お茶でも召し上がれ」

成果と課題 児童は、地域の達人の知識や技を間近に学ぶことができ満足感や達成感を得ることができた。今回は初めての試みということで、児童の興味・関心や集中力が持続する時間を考慮して1講座30分とした。しかし、講師の方々のブース運営が見事で、「30分では物足りない」「もう少し体験したかった」という児童の感想も寄せられた。故郷を学び、故郷を好きになり、故郷に参画する人づくりの一端を担うため、今後さらに発展させていく。